

緑化の推進



子どもと地域のための森の健康診断普及事業

長野県、静岡県、愛知県、三重県、岐阜県



事業概要

①森の健康診断の手法を広く、特に未来を担う子どもたち(学校授業で)に広めるため、依頼のあったところに、講師を派遣し、森の健康診断出前講座を実施した。②熱意のある教師に体験してもらうことで、学校での実施につながるため、教員向けの研修およびJr(高校・大学生)体験会開催した。③コロナ禍に対応するためガイドラインを作成し、それに基づいて対策を行ながら実施する体制を構築する。④コロナ感染リスクを低くするために、家族単位のグループ編成で実験的に実施。えなの森(岐阜)で、家族単位での森の健康診断を開催した。⑤13年のあゆみを冊子にまとめた。

事業成果

①5県延べ24回、講師134人を派遣し、受講者は687人。②教員向けの研修およびJr(高校・大学生)体験会を愛知県で3回開催(主催)。③若者への普及をめざし、Jr隊を結成

し、キックオフ体験イベントを開催した。④学校から家族へ枠を広げ、祖父母・親&子どもに対する森の健康診断を実施。⑤コロナ感染拡大の中、実施のあり方を模索・検討し、コロナ感染対策ガイドラインを作成し、それに沿って実施する体制を構築した。

事業をよく知る関係者の声

- ・この経験を通して子どもたちは本物に触れ、気づき、変わっていくはず。「持続可能な社会」へ向けた大きな力になることを願っている。(高校教員)
- ・一過性のイベントではなく、少なくとも10年は継続する活動として地域に深く根を下ろしたとき、その地の森林に変化が訪れるはず。(森林公社職員)

参加者の声

- ・うまく伐れるかわからなかったけれど、ザクギコと続けていると自分でやってるんだとなあと思いました。もっと森が明るいところになってほしい。(小学6年生)



安全に楽しく活動



森での観察



森の健康診断用具



森の健康診断用具

実績とりまとめ

作業内容

森の健康診断出前講座：28回

参加者数

計：821人

獅子吼高原アウトドアFes.「もりもりの森」&森のふれあい音楽会

石川県白山市



事業概要

“森を知るには、まず森に行き、森に親しむことから”といった考えによって、県民参加型の様々な事業展開を行っている。

今年で2回目となる「獅子吼高原アウトドアFes.『もりもりの森』&森のふれあい音楽会」は、石川県白山市の獅子吼高原山頂での広葉樹の植栽のほか、テントを並べてワークショップなどを実施。また、ミュージックステージなどのプログラムにより、森で楽しく過ごしながら森林保全の必要性を県民に理解してもらった。

事業成果

人々を森に誘うため、アウトドアFes.としてのイベント要素を多く盛り込む。森を巡る動機づけとして行ったスタンプリーには多くの家族連れが参加し、会場全域をまわってもらった。また、樹木医の指導の下で実施したクヌギ

の植栽でも、家族連れの皆さんに森に対する理解を養ってもらった。山麓のパーク獅子吼芝生広場にはテントブースが並び、ワークショップやハンドクラフトの販売があって森に賑わいがあった。

参加者の声

- ・森を巡れてよかった。
- ・楽しかった、また来たい。



クヌギを植樹



植樹



アウトドアフェスは多くの人でにぎわった



ふれあい森の音楽会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha

植付本数：24本

参加者数

県内：44人

計：44人

樹種

クヌギ

活樹祭～水源林・森の恵みと活用を学ぶキャンププログラム(小菅村)

山梨県小菅村



事業概要

生活を支える水源林の多面的機能を理解し、水源環境を保全することの大切さを学ぶ。主な活動は、①林業従事者による除伐の見学及び手ノコで除伐体験、②水源林の豊かな自然やそれを脅かす獣害などの諸問題について実際に見ながら学ぶ水源林体験、③水源林がもたらす川の恵みを調査する水源の生き物探し、④間伐材を利用したスプーンづくり、⑤地元の野菜やジビエを活かした食事づくり。以上の体験を通じて、森が生活に密接にかかわっており、その恵みが私たちの命の源となっていることを学ぶ。

事業成果

水源の生き物調査を取り入れることにより、森とそれらを取り巻く命との関係性を学ぶことにつながった。また、林業従事者による伐採の見学により、より一層森林を保全することの意義や大切さを学べた。間伐材の一部は、コース

ターなどに活用することにより、一層暮らしと森との関わりへの理解が深まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・今回は林業関係者も加わり、より本格的な林業体験となった。(ローソンスタッフ)
- ・自然の中での貴重な体験は忘れられない夏休みの思い出になった、と参加者もたいへん喜んでいる。(埼玉県母子寡婦福祉連合会職員)

参加者の声

- ・内容が濃く子どもも大人も楽しめ勉強になった。また、トラブル時にはスタッフが寄り添って下さったのもありがたかった。(保護者)



専門家から林業について説明



伐採体験



水源の生きもの調査



スプーンづくり

実績とりまとめ

作業内容
 間伐面積：0.8ha
 クラフト：1回
 火起こし：2回
 水源林探検：1回

参加者数
 県内：9人
 県外：66人
 計：75人

活樹祭・親子森林教室～森の恵みと活用を学ぶキャンププログラム(川崎町)

仙台市川崎町



事業概要

未来を担う子どもたちが森と人との関わりやその重要性を体験を通じて学び、森や森をとりまく環境への関心を育むこと。主な活動は、①林業従事者による除伐の見学及び、手ノコでの除伐体験、②現地団体から森林活用のお話を聞く、③森の中で、森の生き物探しとナイトハイク、④間伐材と森の資源を利用したキャンドルホルダー、思い出ボードづくり、⑤ぼくらの里山いきものゲームで、生物多様性を楽しく学ぶ。以上の体験を通じて、森が生活に密接にかかわっており、その重要性について学んだ。

これらの活動は宮城県内で森のようちえんを運営している「森のようちえん虹の森」と協働し実施した。

事業成果

小さな子どもたちもネイチャーゲームを通して森を知り、

関心を育んだ。加えて今年度は川崎町で伐採した木を使ってゲストハウスを建て、エネルギーの自給自足をめざす「百」にも協力していただき、参加者はよりリアルに「木の活用」について学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちの顔がどんどん明るくなっていくのを感じた。目玉となる活動があるともっといいかもしれない。(ローソン)

参加者の声

- ・母子ともに楽しめた。子どもは自然が大好きだが、親だけでは経験させてあげられないことも沢山でき感謝している。スタッフの方々も暖かく見守って下さる感じで、安心して過ごせた。(母親)



伐採体験



伐採後の枝払い



木を磨いてランタンづくり



夜の森へ出発

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.5ha
 森の観察会：1回
 クラフト：2回
 ナイトハイク：1回

参加者数

県内：51人
 県外：8人
 計：59人

活樹祭・親子森林教室～名護の森から学ぼう～

沖縄県名護市



事業概要

森の大切さや自然の豊かさを学び、関心を育むとともに、沖縄県における森林の課題について、体験を通じて学ぶことである。主な活動は、①森での自然観察会(昼・夜)、②森林整備体験、③海辺の自然観察会とサンゴの保護活動。以上の活動を通じて、沖縄の自然に興味を持ち、森や海の課題について考えることができた。これらの活動は、国際自然大学校沖縄校「ネコのわくわく自然教室」「沖縄県北部森林組合」「沖縄ダイビングサービス Lagoon」と協働・連携して実施した。

事業成果

1日目の森での自然観察会では、やんばるならではの生きものや植物を探した。昼と夜に同じ場所で生きもの探しをすることで、森の多様性に気付くことができた。県民の森(恩納村)では実際に下刈をすることで、森づくりの一端を体験することができた。海辺の活動では、生きもの探しやサンゴを探すプログラムを行った。県民の森で出た材と

海岸で拾ったサンゴや貝殻を利用して、海と森が融合したクラフト作成も行った。森と海の活動から沖縄の自然の魅力や課題を改めて知るができ、森の役割や大切さを学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・沖縄らしい自然の体験を提供することができた。移動に時間がかかってしまうことが課題のため、宿泊場所などを今後検討したい。(ローソン)
- ・親子向けの体験活動ははじめてのためとても参考になった。(森林組合)

参加者の声

- ・なかなか普段では難しくできないような活動ができ、子どもも楽しんでた。(保護者)
- ・「危ないからダメ!」と制限してしまっていることを詳しい人と取り組めることは、すごく良い経験になった。(保護者)



森の自然観察会(青少年の家)



下刈(県民の森)



夜の森の自然観察会



サンゴの苗づくり

実績とりまとめ表

作業内容

下刈面積：0.2ha
クラフト：2回
自然観察：3回

参加者数

県内：68人
県外：10人
計：78人

緑のまなび事業(甲賀市立大原小学校 外2小学校)

滋賀県甲賀市



事業概要

甲賀市鹿深夢の森周辺の3小学校共同の記念植樹により教育環境向上、森林環境教育の推進と全国植樹祭開催気運の醸成を図る。主な活動は、①油日小学校で卒業記念植樹、②佐山小学校で卒業記念植樹、③油日・佐山小学校から大原小学校へ苗木リレー、④櫟野ダム上流において緑のまなび記念植樹、⑤コンテナ苗を使用した体験学習。

事業成果

自然の中で行う体験は、子どもたちの感性や身体にたくさんのお影響を与えてくれる。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年の事業については、新型コロナウイルス関係から縮小実施となり、子どもたちの交流の場がなくなったことが残念。(甲賀市大原共有山財産区)

参加者の声

- ・コンテナ苗を使用した植樹は、活着が良いのに手間がかからなかった。子どもたちの良い学習となった。(40代男性)
- ・子どもたちが森林整備の意味を理解し、体験できることが良いと思った。(30代男性)
- ・縮小された卒業式の後に実施された記念植樹で、子どもたちが喜ぶ姿が印象的だった。(30代女性)



植樹前の説明



ていねいに植樹



ヒノキを植樹



苗木リレー

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：0.16ha
植付本数：486本
下刈面積：0.16ha
防護柵設置：200m

参加者数

県内：132人
計：132人

樹種

ヒノキ、イチヨウ、クリ、ウメ、クヌギ

緑のまなび事業

北海道長沼町



事業概要

町内の小学生に緑の少年団への認識を高めてもらうため、身近な校庭の整備に取り組む。また、木工教室で木と触れ合う楽しさを体験し、町内の河畔林の造成に取り組んで、森林整備の重要性を体感してもらう。主な活動は以下のとおり。①校庭に密生している老齢樹木（ニセアカシア）の伐採、②町内の5小学校統合による新たな長沼小学校の開校記念の植樹会、③木工教室（間伐材を使った箸づくりや工作）、④様々な種類の苗木を植樹して、その地域の環境に合った木だけが成育して自然に近い森林をつくるための、河畔林の植樹と木の種採り、育苗活動など。

事業成果

参加した町民5人を含めた33人で、10種類の苗木150本



「小鳥のさえずりが聞こえる河畔林づくり」植樹



「小鳥のさえずりが聞こえる河畔林づくり」種採り



苗木の床替え



木工教室

を植樹して洪水防止の一助とした。

事業をよく知る関係者の声

- ・種から育てた苗木の継続した植樹活動は、その作業の大変さとともに、苗木の成長を確認することで、森林保全活動への参加意識の向上に繋がる意義のある活動である。（公務員）

参加者の声

- ・植樹や種採りや植付けは初めての経験で、子どもの教育に非常に良いと思った。（30代女性）
- ・いろんな種を植えるのがおもしろかった。（小学生男子）

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
 植付本数：150本
 除伐本数：34本
 木工教室：1回
 苗木床替え：1回
 記念植樹：7本

参加者数

道内：71人
 計：71人

樹種

ミズナラ、ハルニレ、ナナカマド、エゾヤマザクラ、ライラック

石垣島里山づくりプロジェクト

沖縄県石垣市



事業概要

本プロジェクトは、耕作放棄地を森に育て、豊かな自然を育むとともに、森によるCO₂固定、海の環境保全にも寄与することを目的とした活動である。活動には、近隣の小学生をはじめ、地元のご家族にも参加していただき、植樹と草刈りを行った。

新型コロナウイルス対策のため、密接にならない配慮をしつつ実施。当日は気温も高く熱中症の危険も高かったが予定通り実施できた。

事業成果

新型コロナウイルス対策のため、植樹と草刈りという森

づくりのみに活動を絞り実施した。また公的な教育機関とも連携し、学生の参加も増えた。参加者も活動に関心が高く、今後の展開に期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動は滞りなく行うことができた。ただ、暑い日となり、熱中症対策も同時に考えなければならないことがよくわかった。季節を変えての実施なども検討していけるといいと思った。(ローソン関係者)

参加者の声

- ・暑い日だったが、森を育てる植樹に参加でき満足。(女性)
- ・木が育って森になることが楽しみ。(高校生)



シナモンを植樹



植樹



草刈り



以前に植えた苗は順調に成長している

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：0.8ha
植付本数：300本
下刈面積：0.4ha

参加者数

県内：36人
県外：2人
計：38人

樹種

シナモン

こどもからお年寄りまで元気になる森づくり事業

北海道羽幌町



事業概要

地域の幅広い世代がビオトープの森づくりに携わり、森の維持管理作業や動植物の観察などを通して、環境保全の意識醸成や世代間交流を図る。主な活動は以下のとおり。①ビオトープでの補植や幼木周辺の下刈、貯水池の水草の刈り取りなどの維持管理作業を行い、ビオトープの緑化を推進。②植樹会や外来種駆除イベント、クラフト体験会などの行事を通して、ビオトープの森林資源を活用しながら地域の自然環境や当協議会の取り組みを地域住民へ伝える。③地元高校と協働し、高校生に植樹、樹木調査、生物調査などを体験してもらうことで、環境教育の場としてのビオトープの活用を進め、地域の自然環境を後世に伝える人材を育成する。

事業成果

2018年と2019年に実施した生物調査の報告会を一般市民

向けに開催し、ビオトープ公園の環境改善案について専門家を交えた専門性の高い議論を行うことができた。また、町民にとっては地元の自然環境について学べる良い機会となった。町外からの参加者もあり、羽幌町の自然環境やビオトープでの取り組みについて周知することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・事業を実施していくなかで自主財源の確保が難しい（会員）
- ・親子で参加できるイベントなどがあれば、幅広い年代の方に公園を利用してもらえると思う。（会員）

参加者の声

- ・町からアクセスしやすい場所にあるので、気軽に自然散歩ができる。季節によって観察できる動植物が変化するので訪れるたびに発見がある。（20代）



羽幌高校生による樹木調査



羽幌ボーイ・ガールスカウトによるオオハンゴンソウの駆除体験



北るもい漁協・羽幌高校合同植樹会



ビオトープの生き物の調査結果報告会

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：180本
下刈面積：8ha
森林資源活用：1回
イベント：7回

参加者数

道内：660人
計：660人

樹種

ミズナラ、ヤチダモなど

Project-D

岩手県北上市、宮城県東松島市、福島県郡山市



事業概要

目的は、被災地の子どもたちを応援する気持ちを届け、復興を支援するとともに、地域の生態系に配慮した緑化に貢献すること。主な活動は、被災地（岩手・宮城・福島）に植える広葉樹（どんぐり）の苗木を被災地周辺でとれた種子を使って育て、植え戻すこと。

事業成果

岩手県北上市と福島県郡山市において、プロジェクトで植栽した苗木を育てるための下刈、枝打ち等の活動を行い、苗木を植えた後大きく育つためには人間の手助けが必要であることを、体験を通して伝えることができた。宮城県東

松島市のフィールドについては、5年間の活動を無事に終了した。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動に参加し、事業の趣旨・目的については十分理解が深まった。今後、学生や市民の環境学習や自然体験活動のフィールドとして活用していきたい。（郡山市の活動を継承した学校法人の担当者）

参加者の声

- ・薄暗かった場所が、枝打ちをしたら明るくなってびっくりした。すっきりして風通しもよくなったような気がする。（郡山市の育林活動に参加した学生）



補植（北上市）



下刈（北上市）



枝打ち（郡山市）



郡山市での作業参加者

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.03ha
補植、枝打ち体験

参加者数

県内：40人
県外：20人
計：60人

「被災地に緑と心のふれあい森林づくり」事業

宮城県登米市、南三陸町



事業概要

緑とのふれあい等を通して、沿岸被害住民と山村住民の交流も図りながら、東日本大震災からの復興を誓うと共に森林づくりの重要性を普及する。

事業成果

コロナ禍の影響により、南三陸町の被災者との交流活動を回避するため分離開催となったほか、参加者数を抑えながら式典や活動の簡素化を図った。そうした制約の中での開催は、参加者にとって心が和み、本当に楽しいひとときを過ごすことができた。特に被災地住民参加者からは、コロナ禍で外出する機会が少ない中での野外活動であり、さらなる継続を望む声が大きかった。

事業をよく知る関係者の声

・新型コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれたが、開催

方法や移動手段を工夫して開催することができた。被災者の方々に喜んでいただけたことが何よりである。来年も感染予防対策をしっかりと講じながら開催してほしい。(登米市担当者)

参加者の声

- ・地元の自然の中で植樹活動ができ、とても癒やされた。しばらくぶりの野外での作業だったので、気分爽快だった。(南三陸町70代女性)
- ・森林体験をしてから海を見渡すと、また震災復興に向けて頑張ろうと前向きな気持ちになれた。(南三陸町70代男性)
- ・地元での森林体験をとおして、生きることの根底には自然があるということを改めて感じる事ができた。(南三陸町70代男性)



児童・教師が参加して広葉樹苗を植樹(米川小学校)



木工教室、県産スギ材で加工された矢羽皿の研磨(米川小学校)



どんぐりの播種



被災地住民も参加してヤマツツジなどを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植樹活動・木工教室：2回

参加者数

県内：180人

計：180人

熊本地震復興支援事業(学校・復興支援住宅等緑化)

熊本県御船町、益城町



事業概要

平成28年熊本地震の被災地域において、地域の復興を支援するため、学校や幼稚園、保育園等周辺の緑化により、子どもたちの共同生活の充実を図るとともに、緑の大切さや木のぬくもりを感じてもらう。

事業成果

今年度は、特に被害の大きかった地域の幼稚園や災害公営住宅等に、苗木94本を提供、緑による潤いを被災者に届けることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新しく建て直した幼稚園や保育園には緑がなく、樹木が園の潤いになるほか、初めて木を植える園児も多く、良い経験をさせてもらった。また、災害公営住宅はできたばかりで潤いが少ないため植樹により木陰や交流の場として期待されている。(市町村関係者)

参加者の声

- ・地域住民や生徒がみんなで植栽や水やりを行っており、木や花が大きくなるのが楽しみ。



サクラ、ハナミズキ、イロハモミジほかを植樹



園庭に緑を



みんなで協力して



みんなで協力して

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：94本

参加者数

県内：325人

計：325人

樹種

サクラ、ハナミズキ、イロハモミジほか

震災の森の復旧・復興を通した子ども森学び体験教室

北海道安平町



事業概要

2018年9月の北海道胆振東部地震で被災した地域にある「北進の森」を中心に、森の復興・復活と、震災によって被災した町民の心のケアを目的とし、崩れた森の整備を通して、子どもたちやその家族、近隣市町村の人々を対象に森の中で遊ぶ場所の整備を行った。具体的な活動としては、地元の林業家や環境教育に携わっているインタープリターや実践者を講師に1年を通した森林活動を行うことで、自然体験活動を通して森づくりや昔ながらの馬を使つての森林整備を体験し学ぶ活動を行った。

事業成果

今年度はより具体的に森の成り立ちや環境教育活動を推進することができた。また、優しい森づくりを心がけ、馬搬での活動を中心に復興に向けた作業を進めることができ

た。子どもたちの屋外での遊び場や学び場として活動を維持することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・風倒木除去などにおけるの伐採は理解できるが、間伐に関しては疑問だったが、木を育てるために伐っていることがわかった。(50代町民)
- ・広い森を歩いて活動することで、森のエリア分けを感じることができた。森の奥の手をつけていないゾーンにフクロウや野鳥がいることを知ることができた。(30代町民スタッフ)

参加者の声

- ・四季折々の森の生き物を発見でき観察もできて楽しかった。
- ・馬の作業を見られ、いっしょに遊べて感動した。



馬で道づくり



巣箱づくり



シラカバの樹液



カエル調査隊

実績とりまとめ

作業内容

下川面積：3.0ha
除伐面積：3.0ha
自然体験教室：14回

参加者数

道内：80人
計：80人

胆振管内連携・胆振東部地震復興記念事業

北海道苫小牧市、厚真町、安平町、むかわ町、平取町



事業概要

平成30年度に発生した胆振東部地震被災地の復興を祈念するため、被災地の校庭・園庭で環境緑化に取り組んだ。また、東胆振地域の住民や関係団体が連携して、間伐材等の木製遊具(積み木)等を制作、被災3町(厚真町、安平町、むかわ町)の子ども関連施設に提供した。また、木製ベンチを小学校に設置した。①胆振東部及び隣接町の子ども園などにおいて復興祈念樹を植樹したほか苗木づくりを行った。②被災地を支援するため、隣接する苫小牧市や市民等が協力、間伐材等を活用した積み木を制作し、被災地の胆振東部の子ども園や子どもセンターなどに提供した。また、木製ベンチを製作、被災小学校に設置した。

事業成果

校庭、園庭での植樹や木製ベンチの設置により、被災地の小学校や子ども園に子どもたちと地域住民の憩いの場が整備された。

被災地に贈る積み木づくりを、植樹祭の参加者や苫小牧市の温室施設の来訪者に呼びかけ、多くの地域住民が取組に参加し、被災地支援の連携の輪が広がるとともに、木育の普及にもつながった。

新型コロナウイルスの感染拡大により、行事の中止や活動の制約が多かった中で、植樹や木製遊具の提供により、被災地の子どもたちの生活に潤いを与えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・緑豊かな環境が整備された。(町内会関係者)
- ・木製遊具等の提供は子どもたちの情操教育にも良い効果が期待される。(子ども園関係者)

参加者の声

- ・一人ではできない被災地支援に参加することができ良かった。(苫小牧市民)
- ・植樹活動は楽しい。木が大きくなり実をつける時が楽しみ。(子ども園園児)



ヤマモミジ、エゾヤマザクラほかを植樹



復興を祈念して植樹



ベンチづくり



間伐材等を活用した積み木

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：44本
ベンチ製作：6基
積み木贈呈：2400個

参加者数

道内：278人
計：278人

樹種

ヤマモミジ、エゾヤマザクラ、クリ、サトウカエデほか

大房岬自然公園の緑復旧支援活動

千葉県南房総市



事業概要

台風15号により大きな被害を受けた千葉県南房総市の大房岬自然公園を一日も早く災害前の状態に復旧し、自然体験を通じた環境学習及び森林セラピーの場として利用できるようにすることを目的として2019年11月9日、台風により折れたり落ちたりした枝や葉を片付ける活動を行った。

事業成果

企業として「緑の活動」を推進する株式会社プロントコーポレーションと千葉県浦安市のこどもエコクラブ「しろくまキッズ」、こどもエコクラブのOGなど26人が参加し、公園の西芝生園地を中心に作業を行い、落枝や倒木に埋もれ

ていた園路を復旧させることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・現場で汗をかく活動を通して被災地の復旧に貢献できて良かった。一生懸命に作業する子どもたちから学ぶことも多かった。(プロント社員)

参加者の声

- ・自分たちの作業によって園路が姿を現したのでびっくりした。
- ・個人ではなかなか行けない場所。バスを出していただいたおかげでボランティアができて良かった。



林内整備



落ち葉かき

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
植付本数：100本
下刈面積：1.43ha

参加者数

県内：19人
県外：7人
計：26人

森・子どもたちへの元気づくり・再生プロジェクト

北海道札幌市、美唄市、苫小牧市、月形町ほか



事業概要

北海道独自の「植樹・育樹の日」の制定や全国育樹祭の開催決定を背景に、森づくり活動などの意義を周知し参加を促すため、植樹や体験活動等を実施した。内容は次のとおり。

①森林や公園、園庭での植樹などの森づくり活動、②木造施設等を会場とし、森や木への理解を深めるための「木育ひろば」を開催。

事業成果

木育マイスターや大学生ボランティアなどの協力を得られたことから、活動の充実と活性化が図られた。一部の植樹は中止したが、参加者の森づくり活動への参加意欲は引き続き高いことが伺われる。

事業をよく知る関係者の声

- ・世界的に環境問題が重要視される時代に、植樹活動で少しでも問題解決の一助になることを実感した。(学校関係者)
- ・木育の魅力を最大限に活用し、各種活動を通して発信することで輪が広がり、活動の参加者の増加や木を大切にすることが認識される機会となった。(大学生ボランティア)

参加者の声

- ・これまで環境問題に向きあわなっていた自分の意識の低さを痛感した。(中学生)
- ・環境問題について、普段家族で話しあう機会もなかったので、緑化運動の大切さを知る良いきっかけとなった。(保護者)



ミズナラ、トドマツほかを植樹



種の採取



苗木づくり



木育ひろば

実績とりまとめ表

作業内容

植付本数：125本
苗木づくり：135鉢
下刈面積：0.1ha
木育ひろば

参加者数

道内：1150人
計：1150人

樹種

ミズナラ、イタヤカエデ、ハルニレ、トドマツほか

【Furano Forest Style】植樹会と間伐イベントを通じた富良野の森づくり人づくり事業

北海道富良野市



事業概要

植樹や間伐作業を通じて、我々動物が生きていくために必要不可欠な森の役割を伝えることである。また、森づくり作業に参加することにより、地域の人(特に若い世代)を育てることにある。主な活動は以下のとおり。①元ゴルフ場跡地のフィールドに自分たちの手で木を植える、②森づくり活動の重要なフェーズである間伐の意味を知り実際に間伐を行う、③間伐材を利用した調理やクラフトプログラムを開発する、④スノーシューや双眼鏡を用いて冬の森に入り森に触れあう。

事業成果

間伐イベントとして、間伐作業だけでなく、間伐材を有

効利用した催しを企画実行することができた。ボランティアのリピーターが来てくれるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・間伐が遅れているように感じる。間伐のペースを上げた方がよい。(50代男性)
- ・昨年蒔いたドングリが芽を出していたのに感動した。(50代男性)

参加者の声

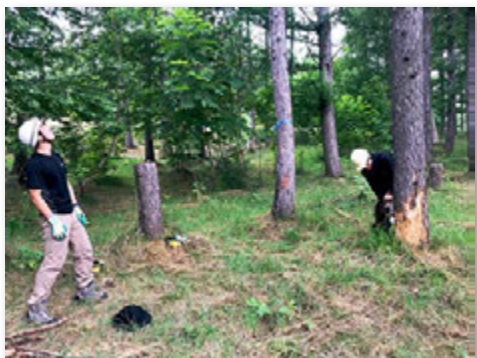
- ・事業開始当初に植えた木が間伐するまでに成長していて感動した。また夫婦で参加したい。(60代)



植樹用ポット苗木づくり



植樹イベント



間伐



冬の森歩き

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.2ha
 植付本数：1831本
 間伐面積：0.3ha
 植樹会：6回
 間伐イベント：2回

参加者数

計：154人

樹種

ミズナラ、ハルニレ、ヤチダモ、ホオノキ、ナナカマド、オオバボダイジュなど16種

森と緑と湖のマチ、そらの森づくりプロジェクト

北海道弟子屈町



事業概要

弟子屈空港跡地を観光客や地域住民が楽しむための森づくりをすることを目的としている。主な活動としては、①自然を活かした観光資源の充実を図るための植樹、②環境に対する意識向上と共生社会の実現をめざした木育教室。

事業成果

そらの森プロジェクトは開始してから9年目となる。シラカバ並木の植樹は、残念ながら枯れてしまった木や育成不良の木があり、それらの植え替え作業を行い、森づくりを継続して行っている事を観光客などに訴えることができた。

木育教室では地元のアカエゾマツの蒸留体験を行い、今まで木工品などの作成をしてきたが、それとはまた違う製

品もできるという「木」から作られるものの可能性の広がりを学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森らしくなってきた。シラカバ並木も植え直しするなどきちんとメンテナンスを行っている。(植生業者)
- ・みなさん楽しそうに作業していた。樹木はいろいろ活用できることが伝えられた。(木育マイスター)

参加者の声

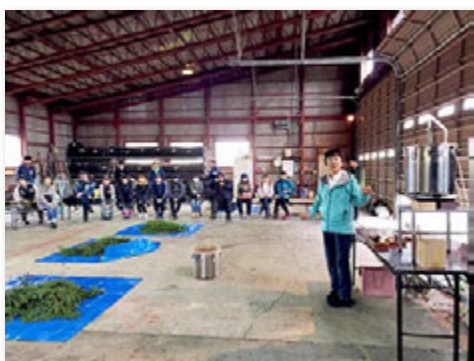
- ・昨年よりも木が大きくなっていてびっくりした。(30代男性)
- ・マツからこんなオイルが作れることは知らなかった。癖のある匂いだが嫌いではない。(40代女性)



第9回そらの森植樹祭



作業前の説明



木育教室



エンジュ、アオダモほかを植樹

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：250本
 下刈面積：0.7ha
 木育教室：1回
 苗畑づくり：1回

参加者数

道内：56人
 計：56人

樹種

エンジュ、ドロノキ、アオダモ、カラマツ、アカエゾマツ

いのちの森づくり植樹祭 IN 奥沢水源地 VOL.7

北海道小樽市



事業概要

地球環境を意識し地域住民との協働で植樹を行う。このことで、防災や自然環境への意識を高めると共に、その土地本来の植生が失われつつある「いのちの森」を守り再生させる。奥沢水源地にて7回目の「いのちの森づくり植樹祭」を開催した。

事業成果

小樽市、北海道の関係機関との協働体制もとれ、スムーズな運営ができた。参加者数は天候が悪く、予定よりも少なかったが近隣中学校の生徒会、小学校も教員引率での参加もあった。千年の森会員企業の家族での参加が多くみら

れた。市内の団体が参加するとともに運営資金を寄付いただいた。今後も環境教育との二本柱で事業を進めていきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・毎年、学校や企業単位で参加してくれるようになり、環境保全などの視野が広まった。(理事)

参加者の声

- ・雨の中の作業で大変だったが、楽しかった。(小学生)
- ・植樹祭は子ども達の思い出になると共にすばらしい環境教育だ。(女性60代)



第7回「いのちの森づくり植樹祭」



ミズナラほか15種を植樹



2124本を植樹



植樹した木を保護

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：2124本
 樹勢回復：1200本
 下刈面積：0.07ha
 除伐面積：0.03ha

参加者数

道内：174人
 道外：44人
 計：218人

樹種

ミズナラほか15種

未来に引き継ごう！天然青森ヒバ林を

青森市、東津軽郡



事業概要

青森ヒバは資源量が減少しており、東北森林管理局では「天然青森ヒバ林復元プロジェクト」として津軽・下北半島の天然青森ヒバ林を復元しようとの取り組みを進めている。当会ではヒノキアスナロ緑の少年団などに稚幼樹の採取・植栽作業などの体験を通じて、天然青森ヒバ林の復元に寄与するとともに、次代に引き継ぐ機運を醸成する。

事業成果

緑の少年団員は、20cmほどの稚幼樹が200～300年を経てヒバ大径木になることに興味を持っていた。森林育成に対する認識を深めることができた。

作業前に、青森ヒバの特徴及び採取方法などを資料を用いて説明と実技指導を行ったことにより参加者の理解と、作

業を協力するなど円滑実施することができた。

地元新聞に取り上げられ青森ヒバの復元への関心が高まった。

事業をよく知る関係者の声

地域流域の特性の遺伝子をもったヒバ稚幼樹を生かし、天然力の積極的な活用方法の検討したい。

参加者の声

- ・植えるときは足でしっかり土を踏むのがコツだと知った。空まで高く大きくなってほしい。(小学生女子)
- ・クワで穴を掘るとき根っこが硬くて大変だった。苗木がでっかい木になるといい。(小学生男子)



ヒバ苗採取



ヒバ苗の説明



植樹方法の説明



植樹

実績とりまとめ表

作業内容

山取苗採取：750本
植付本数：350本
地拵：0.2ha

参加者数

県内：122人
計：122人

樹種

ヒバ

オオヤマザクラ等の保育活動を通じた地域を結ぶ森林づくり

青森県弘前市



事業概要

岩木山の麓の沿線に植えられた街路樹（オオヤマザクラ）の保育・保護と景観の維持及び体験林業と森林観察会を開催する。内容は、①街路樹への補植、ツル切、枯木・枯枝・被陰木の伐採撤去及び作業沿線清掃、②弘前城築城400年記念として植えた森での補植、下刈・除伐・ツル切及び森林観察など。

事業成果

街路樹の手入れは、毎年場所を変えて実施していることから景観が充実してきている。体験林業と自然観察会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からバスによる公募

の参加をとりやめ、自家用車での参加者のみによって行われた。

事業をよく知る関係者の声

・街路樹の手入れを行政などに働きかける必要があるのではないかと。協力関係にあるNPO理事)

参加者の声

・サクラ並木の手入れに参加した。ツル切は会員の方に教えられ初めてでも問題なくできた。意外だったのは、道端の草に隠れてゴミが沢山捨てられていることだった。山の中で適度に汗をかき作業ができ、いい体験となった。自然をより大切にしなければと思った。(20代女性)



オオヤマザクラの植樹



ベンチ設置



枯枝の処理



切口に薬剤を塗る

実績とりまとめ表

作業内容

植付本数：10本
 樹勢回復：300本
 下刈面積：1ha
 除伐面積：1ha
 歩道修理：2km
 ベンチ設置：4基

参加者数

県内：108人
 県外：2人
 計：110人

実施場樹種

オオヤマザクラ

陸奥湾の海と山を結ぶ循環を学ぶ環境学習授業

青森県平内町



事業概要

青森市民の飲み水は八甲田山の恩恵を受けている。また、青森県の基幹産業であるホタテ養殖が盛んなのも、豊かな森とフルボ酸を含んだ水があればこそである。今回参加する生徒の保護者はホタテ養殖業が多いが、中学生はあまり森が海を育む事を知らない。そこで、「社会貢献の森」で、山と川、川と海が自分達の暮らしや生活にあたえている仕組みを植林と学習を通して学ぶ機会をつくり、広葉樹の森の必要性を体感した。

事業成果

今年度は、平内町の小湊中学校の生徒たちが、自分の郷

里で山がいかに大切かということを直接学ぶことができたと思う。このように陸奥湾を囲む市町村の生徒たちに、もっと自分たちが住んでいるところの環境とどう向きあうかという事を、体感して学ぶ機会を提供していきたい。

事業をよく知る関係者の声

- ・青森森林管理署からいつも担当官が参加し、応援してくれている。子どもたちの植林は大変だが、持続的に進めてもらいたい。

参加者の声

- ・今日苗を植えたことで、この自然環境を守っていききたいと思った。(中学1年)



植樹には中学1年生38人が参加



作業現場へ向かう



ミズナラを植樹



森とホタテ養殖がつながっていることを学んだ

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：70本
 下刈面積：0.5ha
 除伐面積：0.5ha

参加者数

県内：14人
 計：14人

樹種

ミズナラ、イタヤカエデ、ヒバ

沈黙しないでピカピカ里山にしませんか！

秋田県仙北市



事業概要

城下町に隣接した里山が住民の高齢化等により、利用されず放置されている状況を改善し、木の文化への理解と地域との交流を図ることを目的としている。主な活動は、①林内環境整備として刈払いやツル切り、②不良木の伐採とヤマザクラ植栽、③遊歩道整備の刈払いや階段の整備、④市民を対象したトレッキングなど。

事業成果

足場の悪い箇所でのツル切り、刈払いの作業ではベテラン会員の指導もあり安全に作業ができた。また、階段については杭の打ち込みに苦労したことから次の作業では施工に工夫する必要がある。

事業をよく知る関係者の声

- ・刈払い作業を継続的に実施することは大変であるが、植栽等を含めて里山が目に見える形で変わってきており、市民の参加意識の向上に繋がる活動である。今後癒しの場としての機能が再生されることを願っている。(元教員)
- ・それぞれの参加者に合った条件下で作業できるような環境を望む。(支援学校教員)

参加者の声

- ・記念植樹することで環境への理解が深まった。大きく育つのが楽しみ。(小学生男子)
- ・きれいに整備されている。また来たい。(50代男性)
- ・自然とふれあい子どもも喜んでいて。(40代女性)



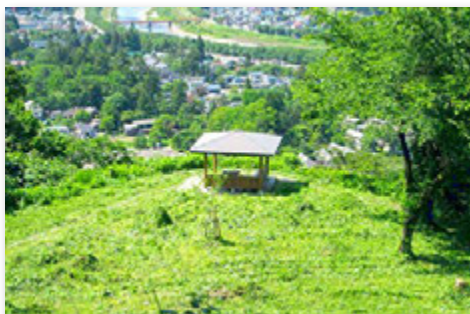
ベニヤマザクラの植樹



10組が参加して記念植樹



遊歩道を整備



整備された里山

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：1.0ha
 植付本数：10本
 樹勢回復：12本
 下刈面積：2.5ha
 除伐面積：0.5ha
 間伐面積：0.5ha

参加者数

県内：22人
 計：22人

樹種

ベニヤマザクラ

八幡山桜(はな)の森整備事業 紅葉の森整備事業

山形県飯豊町



事業概要

元採草地を「里山の森」に再生する。桜の森のほか、早春・初夏・初秋の花木の森、新・深緑の森、紅葉の森をつくり、雪解けから降雪までの期間、人々が楽しめる里山に整備する。

3年目の今年度で紅葉の森整備は完了する。また、「森づくり」と「里山を考える」集いでは、今年度は、里山再生に欠かせない「広葉樹の経済価値を高める」ことについて、講師を招き研修した。子どもたちに森づくりに関心を持ってもらうために苗木づくりを行う「森のホームステイ事業(県事業)」を併せて行った。

事業成果

桜の森づくりもサクラ植栽が1haを残すのみになった。森づくりが数世代にわたる取り組みが必要なことから、そ

の一環として児童を対象に「苗づくりからの森づくり」を行った。

事業をよく知る関係者の声

- ・昨年と比べ、参加者が少なかった。特に子どもの参加対策が必要。「焼き芋パーティ」を加えるのはどうか。(協議会役員)
- ・講演会を午後から午前中に移したが、それでも帰る人が少くない。(協議会役員)

参加者の声

- ・木を植えるのが楽しかった。子どもの参加が少ない。(小学生男子)
- ・植樹が短い時間で終わってしまった。ほかのイベントを加えたらどうか。(60代地元男性)



植樹場所の整備



ヤマモミジ、ケヤキほかを植樹



下刈



「広葉樹の経済性を高める」についての講演

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：0.4ha
 植付本数：40本
 下刈面積：0.8ha
 ポット苗づくり：150鉢

参加者数

県内：99人
 計：99人

樹種

ヤマモミジ、ケヤキ、イタヤカエデ、イロハモミジ

ふるさとの風景づくり植樹祭

福島県矢祭町



事業概要

耕作放棄地等の復興をめざして、地元に関わりのある人たちが協働して、子どもたちに自慢できる風景を取り戻そうとする活動。植樹に当たっては、福島原発事故の復興を支援するため、原発事故で避難せざるを得なかった富岡町の夜の森桜を植栽した。

事業成果

耕作放棄地が整理され、よみがえった現地を見て、地域の人たちにも好影響を与えている。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域でこうした活動はあまり例がないので、地域の人も高い関心を示している。(地区住民)

参加者の声

- ・今年は新型コロナでやむを得ないが、次年度は多くの参加者により実施したい。
- ・この地区の耕作放棄地が新しい風景によみがえるのはすばらしいことだ。



植樹地の整備



サクラを植樹



下刈



作業参加者

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：0.45ha
 植付本数：70本
 下刈面積：0.2ha
 地拵え：0.25ha

参加者数

県内：41人
 県外：10人
 計：51人

樹種

サクラ

みんなで作るみんなの森プロジェクト

栃木県那須塩原市



事業概要

園児たちが、園庭林を生かした体験活動を通して、森林の役割や森林整備の必要性を学びながら、すこやかに成長することをめざす。

主な活動、①下刈と堆肥づくり、②生物のつながりを学ぶ生物多様性ワークショップ、③森のようちえんの理念を学び、園庭林のあり方を検討するランドデザインワークショップ、④立枯木などの撤去、⑤立枯れ木などの間伐、⑥間伐材の有効活用を学ぶ薪割り、⑦ネイチャークラフト (⑦のみコロナウイルス感染防止のため中止)。

事業成果

園児たちが森林のなかでも安心して遊べるようになった。専門家に指導していただいたため、風土に適した森林整備を手がける知識と技術を学ぶことができた。

当プロジェクトに参加した保育園の保護者の方が、当会の活動を応援する会を結成。また、講師として協力いた

いた方々と新たな協力体制ができた。

下刈と間伐を行ったことで、日光が差し込むようになり、ヤマユリ (日本固有種) が咲いた。

事業をよく知る関係者の声

- ・園庭には、畑地や混合林、庭園などで異なった生態系が見られる。適切に管理することで生物のつながりを学ぶ格好のフィールドとなり得る。(県自然環境調査員)
- ・園庭林には、園児が自ら遊びを見出すきっかけがたくさん潜んでおり、適切な手入れにより、園児の健全な成長に寄与する遊び場になる。(森のようちえん指導員)

参加者の声

- ・刈り払い機の使い方を学べた。(30代男性)
- ・子どもの頃に森林で遊んだ記憶が蘇った(30代女性)
- ・木を切っているときにノコギリから伝わる感触が新鮮で心地よい。(小学5年女子)



下刈と堆肥づくり



生物多様性について学ぶフィールドワーク



間伐



手動機械で薪割り

実績とりまとめ表

作業内容

下刈面積：0.2ha

間伐面積：0.2ha

薪割り

参加者数

県内：77人

計：77人

渡良瀬川源流の荒廃地緑化事業

栃木県日光市足尾町



事業概要

銅山の煙害で荒廃した足尾の山に木を植えることを通して、自然環境の健全化に貢献することである。主な活動は以下のとおり。①植樹後の下刈や枝打ちなどの管理作業(夏の草刈デー、毎月第3土日の作業デー)、②小学校を中心とした団体の植樹活動の支援(体験植樹)、③ボランティアを募集して植樹会(春の植樹デー)、今回はコロナ禍で中止となった。

事業成果

年間1万人の植樹参加者が使用する道具は消耗が激しく、道具購入の継続した助成により円滑に植樹作業を行うことができた。熱中症対策やコロナ対策、またボランティア保険料等の助成受けることで新たな課題を解決することができた。樹木管理や環境学習の講座受講により新たな事業展開を進めることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・25周年を迎え組織を見直し、基本理念「自然環境を大切にすることを育む学び舎です」をはじめ指針が策定され組織のめざす方向が明確になった。今後の課題としては、人材を育成する環境整備、支援者を増やす取り組み、PRの拡充などがある。(コンサルタント業)

参加者の声

- ・未経験の児童にも分かりやすく、植樹作業も充実感を得られた。優しく丁寧に指導くださり子どもたちも嬉しそうに活動できた。(小学校教員)
- ・作業参加者のモチベーションを保つためにも、成果の見える化のような工夫が必要だと思う。(作業デー参加)



体験植樹



植樹地の整備



苗木の管理



下刈

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：0.4ha
植付本数：4336本
下刈面積：0.4ha

参加者数

県内：562人
県外：3359人
計：3921人

樹種

コナラ、クヌギなど35種

千葉の里山で竹林整備と竹の利活用

千葉県市原市、大多喜町、東京都港区



事業概要

千葉は全国第7位の竹林面積がありながら、タケの活用が少ないため放置されている。この放置竹林を整備し持続可能な社会に向けての、食料生産、対炭素社会への活動をしていく。昨年は台風が千葉県を襲い、竹林も大きな被害を受けた。その中で多くの参加者が倒木の片づけ、竹炭づくりに関わり、復旧作業を行った。

事業成果

チェーンソーなどの装備があることは自助努力による復旧も可能であり、地域での相互扶助の効果も得やすい。里山活動は災害復旧に有効であると証明できた。きれいになった竹林では、タケノコがとれ景観も美しい。

事業をよく知る関係者の声

- ・市原市は竹林が多く、過疎地域では高齢化が進み整備ができない状況である。協議会は、多くのボランティアを受け入れ、発達支援等デイサービスの子どもたちも招待するなど地域の活性化につながる活動を行っている。(前市原市長)

参加者の声

- ・大多喜と市原の竹林整備に参加して達成感があった。今後も参加したい。(30代会社員)
- ・毎年招待していただき感謝している。自然との触れ合いがすばらしい。(50代発達支援デイサービス経営)
- ・竹林整備は2回目で作業は楽しい、昼食もおいしい。(高校生)



竹林整備



タケノコ掘り



楽しく安全に



講師を招いて竹炭についての学習会

実績とりまとめ表

作業内容

竹林整備：0.8ha
竹炭作り：500kg
タケノコ掘：約50本

参加者数

県内：152人
県外：78人
計：230人

高尾小仏植樹祭 2019

東京都八王子市



事業概要

約50年前の中央自動車道建設時に発生した小仏トンネルのズリ置場に市民の手による森づくりを行うことで、周辺の豊かな自然環境にふさわしい景観を創り、災害防止機能や水源涵養機能などを持つ森林再生の普及・啓発を行うことである。主な活動は、小仏盛土場で247人が参加し、郷土樹種の常緑及び落葉広葉樹を植える植樹祭を開催する。

事業成果

企業からの団体参加がさらに増えた。また、企業ブースのテントを設置して広報活動を行っていただいた。

森づくりの小冊子を参加者に配布し、植樹祭開会式までの時間を有意義に過ごしていただいた。

事業をよく知る関係者の声

- ・企業ブースを設置できたことで、多くの参加者が混乱なく集合できたので大変助かった。(企業の担当者)

参加者の声

- ・毎年参加することで森の成長が見られて楽しみが広がった。また参加したい。(家族連れ)
- ・雨あがり足元がぬかるんで作業は大変だったがやりがいを感じた。(初参加者)



植樹地全景



毎年参加し、木の成長を見守っている人も



広葉樹を植樹



247人が参加

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：1.04ha
植付本数：3453本

参加者数

都内：123人
都外：124人
計：247人

樹種

アカガシ、コナラ、イヌシデなど38種の広葉樹

サンシティD棟西台地の野草園化活動

東京都板橋区

事業概要

D棟西台地365㎡への日照の確保、植え込む植樹木の被圧を防止するために生育する中木の枝落としおよびオカメザサを駆除するために林床を開墾。植樹および野草の植え込み環境を整備して、17本のサクラの植樹、野草610株を植え、憩いの公園化を図る。

事業成果

植樹地を1㎡・深さ1m掘削して、サンシティで醸成した堆肥2：掘削した土壌8の割合で混ぜ合わせた土壌改良を行った結果、植樹した梅樹は100%活着した。

住民・外部から参加者（見学者含めて）は、緑を育てる仕組みを学ぶことができたとの声をいただいた。

事業をよく知る関係者の声

植樹のサクラは、地域性からこれまでのソメイヨシノに代えてヤマザクラなど在来種を選ぶべきと助言があった。

また、1㎡・深さ1mを掘削し土壌改良を行った上で植樹を行ったことを評価していただいた。

参加者の声

- ・将来に向けたサクラ、野草公園の完成が生活をエンジョイさせてくれる。
- ・自分で作業をやってみて、緑を維持することは地道な積み重ねが重要で、また緑の中にいると気分が爽快になることを実感した。（レンジャー）



植樹穴の掘削



サクラの植樹



野草の植え込み



サクラの枯れ枝落とし

実績とりまとめ表

作業内容

下刈：0.14ha
枝落とし・チップ作業：72本
植付本数：17本
野草植込：610株

参加者数

計：212人

樹種

サクラ

ののはな緑の小道プロジェクト

神奈川県相模原市



事業概要

園内で活用されていない場所を、井戸水を利用しながら自然植物や生き物と共存できるコミュニティスペースづくりを地域や保護者と共に行う。

主な活動は、①「自然体験活動」でのノウハウを生かし、さらに身近な自然、生き物への興味関心を高める、②環境整備(枯れ木の撤去、整地、伐採と剪定)、③専門家による自然環境指導と整備した木材を使用してクラフト活動、④植樹と小道づくりなど。

事業成果

日常の保育の活動の中で、自然の大切さや虫の特性などを知る機会をつくり、自然への関心を高めることができた。

保護者や地域の人も共に行うことで幅の広がった関係性を得ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・観察や整備など、自然にかかわる活動を通して子どもたちの関心は高まり、植樹した場所で過ごす姿も多く見るようになった。自然との共存のありかたを学ぶこともできた。(コーディネーター)

参加者の声

- ・シラカバが大きくなってきた。(5歳女児)
- ・枯れた木がなくなったら、ダンゴムシが少なくなった気がするよ。(5歳男児)



シラカバを植樹



生き物観察



生き物観察



葉のワークショップ

実績とりまとめ表

作業内容

植付本数：11本
読み聞かせ：3回
ワークショップ：2回
生き物観察：4回

参加者数

県内：279人
計：279人

樹種

シラカバ

次世代につなぐ里山づくり

福井県若狭町



事業概要

身近にある里山の荒廃が進んでいるなか、多くの人に里山に関心を持ってもらうことと、子どもたちに自然環境の大切さを学び、行動できる力を身に付けてもらう。主な活動は、①落葉広葉樹の植栽する第12回ミニ植樹祭、②子どもたちが自然に親しみ、自然環境問題について身をもって学ぶ、③過去の植栽地の管理作業を通年実施。

事業成果

これまで手付かずだったササ地の開拓を行い、第12回ミニ植樹祭でクヌギとヤマグリを植樹した。今回でほぼ植樹を終えることができた。

間伐体験を年間2回実施し、伐採、搬出、玉切り、薪割りなど活動を実施できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・毎年、国立若狭湾少年自然の家職員の研修を受け入れている。その目的は、少しでも子どもに寄り添った活動に繋がりたいという思いである。長く継続して参加している子どもたちが多いため、活動が自主的でスムーズに行われていることと、準備から後片付けまで参加者が行っているなどが評価されている。毎年課題としてあがっていた参加者減少は、解消されつつあるが、スタッフの高齢化と若いスタッフの育成が大きな課題となっている。

参加者の声

- ・自粛生活で溜まっていたストレスを発散できた。スギを一人で伐り倒せたことはうれしかった。(中学2年女子)
- ・子どもたちの生き生きして活動している姿を見ることができ、成長したなあと感心した。とても良い体験活動だった。(小学3年女子の母親)



第12回ミニ植樹祭



獣害対策のネットを取り付け



「森のしごと体験」玉切り



「秘密基地づくり」タケで炊飯

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：20本
 下刈面積：2.4ha
 間伐面積：0.2ha
 環境整備：16回
 自然体験活動：8回

参加者数

県内：238人
 県外：4人
 計：242人

樹種

クヌギ、ヤマグリ

昆虫の棲める里山再生

山梨県北杜市長坂町、須玉町、高根町



事業概要

目的は、国蝶オオムラサキの日本一の生息地である北杜市の里山林を保全し、未来に伝えるためである。主な活動は、近年高齢化により管理放置され荒廃の一途をたどっている里山林の下刈、間伐、風倒木の整理やオオムラサキの餌となるエノキ、クヌギの苗を皆伐地に植樹して里山林を再生している。これまでの成果としては、令和元年6月現在、クヌギやエノキの苗を10万本植樹し下刈面積は55haに及ぶ。

事業成果

管理放置したままの風倒木・枯損木が乱雑に放置され鬱

蒼とした里山林が、明るくなりオオムラサキなどの昆虫の棲める里山環境に改善され、里山景観もよくなった。

これまでの活動実績が評価され、北杜市、韮崎市エリアの情報月刊誌にも取り上げられ地域住民の認知度理解度が深まった。活動を通して若手林業者との連携を強めた。昆虫の棲める里山再生活動の取り組みについての講演依頼が多くなっている。

参加者の声

- ・里山を再生する活動に共感する。
- ・植樹で小さな子どもにもやさしく指導をしてくれありがたい。



エノキ、クヌギ、ヤマザクラなどを植樹



下刈



5000本を植樹

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：5.9ha
 植付本数：5000本
 下刈面積：35ha
 間伐面積：2.0ha
 キノコの原木栽培教室：2回

参加者数

県内：2280人
 県外：38人
 計：2318人

樹種

エノキ、クヌギ、ヤマザクラ

猿投山北西山麓の環境林整備

愛知県瀬戸市



事業概要

県有林やまじの森・私有林・東大演習林において、環境林として整備するとともに名古屋近郊の市民が森の恵みを感じられる森づくりを行う。

主な活動は、人工林の間伐、自然観察道の整備、雑木林の除伐、林道整備など。森の手入れの体験、幼稚園児への体験学習（森の探検隊）、なごや環境大学の講義（水源の向こう～水源の森へ）などの森の機能を理解する教育などを実施する。

事業成果

県有林やまじの森の緑化政策時に植えられたハリエンジュなどが巨木化しすぎているので除伐した。下層植物の生育が期待できる。手入れの進んだ猿投の森をベースに自然

観察会、森の探検隊、なごや環境大学、長久手まちセン祭り、環境デーなごやなど一般参加者への森の働きを啓蒙する活動も実施。森には休養、観察、トレラン、ハイキングなどに訪れる人が増加した。

事業をよく知る関係者の声

- ・関係機関から、森が明るくなり訪問者の安全確保の観点も含め良くやっていたらと評価されている。計画した人工林の間伐は進んでいる。

参加者の声

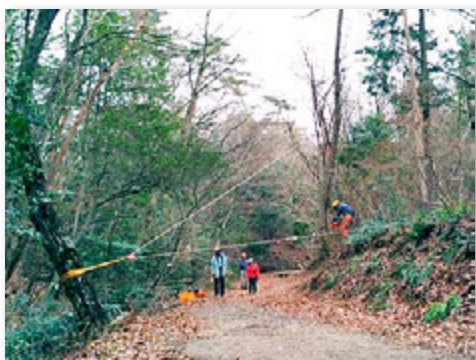
- ・森で汗をかく作業が楽しい。森を訪れる人から感謝の声をかけられると気分が良い。（森の会員）
- ・水源の森がいかに大切か理解できた。（なごや環境大学講座受講者）



観察道整備



間伐



枯損木の伐倒



自然観察会

実績とりまとめ表

作業内容

除伐面積：0.6ha
 間伐面積：0.4ha
 自然観察道整備：3.2km
 作業道整備：1.5km

参加者数

県内：1189人
 計：1189人

環境問題について考え、自然と触れ合おう

三重県津市



事業概要

木育を通じて子どもたちの積極性・役割意識・協調性・社交性・自信などの社会的情動的スキルを育てる。主な活動は、①山の環境や木についての勉強、②木を大切に、身近に感じるために木を使ったクラフト教室、③市内の里山へ行き、山の環境を実際に見て、自然と触れ合う体験、④市内の公園でどんぐりの実の収集し、施設内で植樹できる苗木まで育てる、⑤星の観察など。

事業成果

森林インストラクターと星マイスターの資格をもっている方から指導を受けたので、参加した子どもたちは専門的な知識を教えてもらうことができた。さらに、どんぐりの実をたくさん収集できたので、今後の植樹活動のために苗木に成長するまで育てる準備ができた。

事業をよく知る関係者の声

- 子ども達の自然に対する関心が予想以上に高いと感じた。どんぐり拾いでは、大きさや形の違いから、たくさんの種類があることを子ども達自ら気づくことができた。実を植える作業もとても興味を持っていた。今後このまま育苗を続け、植樹活動を行いたい。(どんぐりの会職員)

参加者の声

- 川が澄んでいて野菜を川で冷やして食べるなど、普段の生活ではできない自然と触れ合う体験ができた。(どんぐりの会職員)
- 溪流にかけたブランコが楽しかった。(小学生女子)
- 初めて川に飛び込んで遊んだ。川がとてもきれいだった。(小学生男子)



クラフト教室



山の環境を勉強



ノコギリを使って



どんぐり拾い

実績とりまとめ表

作業内容

クラフト教室：1回
木こり体験：1回
どんぐり拾い：1回
星空観察：1回

参加者数

県内：112人
計：112人

揖保川源流の森づくり

兵庫県宍粟市、明石市、姫路市、神戸市



事業概要

揖保川の自然風土を後世に引き継ぐ活動を通し、地域住民の森林に対する意識を高め、地域で交流をはかり、地域の森づくりを推進する。

事業成果

今年は新型コロナウイルスの影響もあり、イベントとしてはドングリ拾いしか実施できなかった。

ドングリの植樹会はイベントとしては中止し、会の役員のみで小規模に実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・シカ対策のためにも、できるだけ大きな苗木を育てるため、最近では大きな畝で育苗を試みている。伸びた苗が横に成長するのではなく、上に伸びるよう葉の剪定をするようにしている。

参加者の声

- ・ドングリ拾いをする時期は涼しくなる頃だが、いつも体を動かすと汗ばむくらいの陽気で、ドングリをたくさん拾った後はさわやかな気持ちになった。



ドングリ拾い



植樹



植樹



下刈

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1ha
植付本数：300本
下刈面積：2ha
ドングリ拾い

参加者数

県内：171人
計：171人

樹種

ミズナラほか広葉樹

新元号(令和) 記念植樹祭

広島県廿日市市



事業概要

「山の日(8月11日)」に小室井山(標高1072m)の山頂付近で植樹を行った。参加者自身の手で植え育てる。この活動を通して、山の恩恵を見つめ直し、山の恩恵を深めていくことを目的に植樹をした。山の日と森林に対し感謝と理解を深め、森林再生へのきっかけづくりとした。主な活動は、次のとおりである。①祝日の「山の日」にあわせて植樹祭を開催、②小室井山に登り、山頂付近に一人1本の苗木を記念植樹、③小室井山に登れない方は麓で植樹、④2回目の植樹祭を9月15日に開催、⑤植樹に当たっては、事前に地拵えを行い植えやすい環境をつくった。また、安全に登山するため登山道整備(草刈り)を行った。

事業成果

新元号(令和)の新時代の幕開けを記念できたと大変喜ば

れた。一人1本オーナー苗木を植樹する活動を広島から発信、次世代に引き継ぐ第一歩とすることができた。

広島市内の施設の児童(知的障害者)が参加した。障害者と健常者が一緒に行動をしたことでお互いを思いやる心を学ぶことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・継続した植樹の活動は、苗木の生長を確認することで森林保全活動への参加意識の向上につながる。(公務員)
- ・体力に見合う会場に分けての植樹は、参加しやすい企画であり、これからも継続してもらいたい。(公園関係者)

参加者の声

- ・毎年家族で来ている。花が咲くころ来たい。(小学生)
- ・健常者といっしょに植樹を行う体験は今回が初めて、大変良い企画で感謝している。(施設職員)



レンゲツツジの植樹



ネームプレートの取り付け



植樹後に水やり



「山の日」の植樹祭には156人が参加

実績とりまとめ表

作業内容

登山道の草刈り：2000m
 植栽地地拵え：0.1ha
 植栽：200本

参加者数

県内：240人
 計：240人

樹種

レンゲツツジ

「山野草 350 種の花が咲く」森の保存による里山事業

山口県鹿野町



事業概要

貴重な山野草350種の生きた図鑑づくりのため森の保護活動を行う。保護し後世に残すため、新たな山野草の植栽と来園者に分かりやすい花のプレートを設置する。

事業成果

ヒメササユリ 200球とセツブンソウ 100株の植栽により、西日本でも数少ない群生が見られる場所となる、写真入りの花の山野草紹介プレート 30枚が追加され、花が咲かない時期でも学べる森となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・植栽により花の群生化が進み多くの人が感激している。(鹿野やまなみ荘理事長)
- ・継続した手入れと後継者の確保が課題。

参加者の声

- ・この取り組みに達成感を感じている。来園者が増えてきていてうれしい。



ヒメササユリ、セツブンソウの植え付け



山野草紹介プレート



山野草の特徴などが書かれている

実績とりまとめ表

作業内容
植付本数：300

参加者数
県内：32人
計：32人

森づくり活動拠点での体験ふれあい事業

徳島県美馬市



事業概要

適切な森林整備が難しい100ha～300haのまとまった森林活動拠点において、森林整備を実施し、環境保全の重要性並びに豊かな森林を次世代に引き継ぐ県民総ぐるみの森づくりモデル団地の役割を認識してもらう。①皆伐後の森林への植栽、②県産材を利用した木工クラフト、③木に触れ温もりを感じる木育広場、④森の香りを楽しもう「杉と桧のアロマスプレーづくり」。

事業成果

過去最大の参加数となった今回の活動から、豊かな森林を次世代に引き継ぐことや、森林整備の重要性が浸透し、森林保全への意識が高まっていることが実感できた。また、参加企業の多くがSDGsに関心を持っている様子がうかがえたことにより、今後もSDGsに貢献できるメニューの提案が重要であることがわかった。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 地元の伝統行事なども交流行事に取り入れながら、地域に根ざした活動として今後も定着してほしい。(地元ボランティア)
- ・ 森林活動拠点を地域の方々と社員がいっしょになって保全できる。この取り組みにより社員の環境への貢献意識も年々高まってきていると感じる。(企業担当者)

参加者の声

- ・ 何十年後、きれいに紅葉すると思うと、手に力が入り頑張ろうという気持ちが出てきた。これからもこのような活動を続けて徳島の山をもっと美しくしたい。(小学生)
- ・ なかなか体験できない植樹活動や丸太切り体験、木工クラフトなどを通じ、子どもたちが自然や環境について考える良い経験となった。(40代男性)



スギ、カシ、イタヤカエデほかを植樹



伐採跡地に植樹



木に触れ温もりを楽しむ



アロマスプレーづくり

実績とりまとめ表

作業内容

植付面積：2.2ha
植付本数：4400本

参加者数

県内：534人
県外：15人
計：549人

樹種

スギ、カシ、イタヤカエデ、トチノキ、クリ

湘南国際村めぐりの森づくり

神奈川県横須賀市、葉山町



事業概要

「湘南国際村めぐりの森」は、民間事業者により約20年前から300haにわたる開発が行われていたが、業績不振に陥った会社が神奈川県へ無償譲渡した土地112haである。荒れ地となった土地をどう再生したらよいか検討したところ、横浜国立大学・宮脇名誉教授が提唱している土地本来に生育する常緑広葉樹林に再生する気運が高まり、県は2008年より森林再生を市民による協働参加型による活動を始めた。自然環境の復元、里地里山の持続的管理のための社会的枠組みや利活用方策等に関する普及啓発に寄与するものと考えられる。具体的な内容は、①通年の育樹、②通年の荒地の大地再生施工、③通年の各種調査、④植樹用マウンドの施工、⑤年間2回の公開イベント植樹祭、⑥実地訓練型「森林再生指導員」認定事業、⑦通年活動には一般ボランティアの体験参加も受け入れる。

事業成果



潜在自然植生種を植樹



第17回植樹祭



土壌調査



植生調査

令和元年11月に1140本の苗木を植樹する第17回湘南国際村めぐりの森植樹祭を開催。来場者は予約を上回る268人となった。令和2年5月に第18回植樹祭を開催予定であったがコロナ感染予防対策の影響にて中止。植樹事業を推進するため、運営メンバーのべ約100人で4月～7月の3ヶ月間に渡り通年作業の中で植樹した。

定例の植樹祭以外に港北区青少年指導員協議会の主催する「港北区自然体験教室」が実施された。

事業をよく知る関係者の声

- ・植樹体験は植樹リーダーが各班に配置され、手厚いケアのもと怪我や事故もなく終了した。(運営メンバー)

参加者の声

- ・初めて参加させていただき有意義な時間だった。良いことにつながる経験ができ、素晴らしい活動だと思った。
- ・植樹についてどういう効果があるか、勉強会があると良いと思った。

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：5090本
大地再生：0.17ha
草刈：0.16ha
育樹：0.24ha

参加者数

県内：771人
県外：63人
計：834人

樹種

潜在自然植生種32種

さばえの里山と人を結ぶSDGsへの森づくりプロジェクト

福井県鯖江市



事業概要

荒廃が進む里山を再生するために、市内の小学生を対象に各小学校で7月から11月にかけて森づくり教室（小学校）、どんぐり拾い（近くの公園や里山）、植樹祭（地区の里山）などを実施した。10月には市民・企業・NPOを対象に市民植樹祭を実施。また、鯖江市の里山から伐採したスギ・ヒノキなどを利用して子どもたちや病児を対象に児童館などで広報活動を実施し鯖江の森からSDGsを発信した。

事業成果

荒廃が続く里山の整備により京都や福井の学生、地域の小学生の参加・障がい者・企業ボランティアの参加により森づくり活動の輪が広がってきた。今年度は、植樹から育

樹活動を続けながら木を使い活かす活樹へとつながる木育活動を、子ども達の森づくり授業を中心に森林のSDGsへの転換を図る第一歩となった。

事業を良く知る関係者の声

- ・どんぐりからの命の森づくりと間伐材を利用した木育活動など、鯖江の森からSDGsへと発信する事はできたが、予算などの関係もあり歩道整備や除間伐整備はあまりできなかった。

参加者の声

- ・森の授業を通して、木を植えて育てて木を使う活動はこれからの地球温暖化防止には大切だとわかった。（小学4年）



どんぐりから苗を育てる



小学生による植樹



椅子づくり



児童館で木に親しむ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.55ha
 植付本数：3000本
 下刈面積：0.6ha
 除伐面積：0.5ha
 木育活動：9回
 森の授業：34回

参加者数

県内：3112人
 計：3112人

樹種

広葉樹

グリーンベイ OSAKA 森を育てる活動

大阪府堺市



事業概要

大阪湾における津波を防ぐ海岸防災林をめざして、大阪府堺市産業廃棄物最終処分場であった埋立地にて第13回植樹会を実施した。植樹後は草刈、施肥、冠水などの維持管理活動も行った。今回は活動予定日の数週間前に実施日を変更したため参加人数が減少した。

事業成果

560本を植栽した。これまでにおよそ14ha植樹したことになる。しかし、これまでに植樹したところにクズの繁茂が散見された。森を持続的に管理していくことが今後の責務のひとつと考えている。

事業をよく知る関係者の声

- ・この植栽地は「共生の森」(約100ha)の一部である。「共生の森」で活動する他団体と、問題が発生すると、ともに考えることも欠かせない。私たちの植栽現場が森のようにうっそうとしてきたところにクズが繁茂してきた。これは森全体として課題でもある。今後はクズ対策に迫られてくると思われる。

参加者の声

- ・産業廃棄物の埋め立て地が「森に見える」ように変わってきた。すばらしい取り組みだ。



アカマツほか13種を植樹



59人が参加

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
植付本数：560本
下刈面積：0.46ha

参加者数

府内：59人
計：59人

樹種

アカマツほか13種

菊炭と里山を未来につなぐプロジェクト

大阪府能勢町



事業概要

目的は、地域の伝統燃料であるクヌギの製炭を核として都市農村交流事業から、都市部の理解者、協力者が徐々に増えてくる中、今後もこうした地域のファンの増加、SDGsの意識の普及啓発のもと持続可能な里山環境づくり、ひいては広い圏域の地域活性化である。本年は植樹の意義をドングリに焦点をあて流域の循環について考える機会を加えて実施した。①講演会と山の現場を歩き、農山村と都市部、森林と川下の関係を学び、環境保全の実践につなげる。②ドングリからクヌギ苗を育てるためのドングリを植えるプロジェクト。③生木を使ったグリーンウッドワーク体験会。④菊炭と里山を未来につなぐ植樹会。

事業成果

9月に植樹地で講演会を行い、都市農村のつながりや人々の小さな意識から環境保全が始まることを確認できた。また、この講演会を皮切りに初の試みとして、都市の人達

と地元のドングリを植え、育てるプロジェクトを開始した。都市でのドングリは獣害もなく順調に生育しており、参加者との交流が深まった。次年度の植樹には今年度のクヌギ苗を持ち寄り植樹予定である。

事業をよく知る関係者の声

- ・地元高校生の実践の場であり、一般住民と実際に協働する場としても今後も継続参加していきたい。(高校教員)
- ・都市と農村の関係をこれからもつくっていきましょう。(コンサルタント関係者)

参加者の声

- ・様々な分野の連携がこれからますます重要。教育が大事。(40代男性)
- ・山と海が繋がっていることの重要性を感じた。(70代女性)
- ・能勢町の誇るべき宝を他の地域にも広がればと期待する。(70代男性)



クヌギの植樹



シカ害防除ネットの設置



苗



森のなかで講演会

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.21ha
 植付本数：200本
 下刈面積：0.21ha
 除伐面積：0.2ha
 イベント：7回

参加者数

府内：201人
 府外：13人
 計：214人

樹種

クヌギ

「地球に緑を 桜島を緑に」どんぐりの照葉樹森づくり

鹿児島市桜島



事業概要

植栽地は桜島の麓で鹿児島市有地(採石場跡地)でクズがはびこる荒地である。錦江湾近隣の学校で「緑の少年団」のある学校(21団体)を実行委員(巡回指導員)が定期的に訪問し桜島に既存しているどんぐり種(ウバメガシ・アラカシ・マテバシイ)採種し種蒔き・鉢上げ・鉢替え等の育苗体験活動を計画的・継続的に体験させ苗を育てる喜びを味わってもらい、3年間育てた苗を鹿児島のシンボル桜島に植栽する体験活動で森林の役割と地球温暖化防止及び砂防等に関心・意欲を高めることを目的としている。

主な活動は、①下刈り・枝打ち作業、②第19回桜島どんぐりころころ植樹祭、③追肥活動・補植活動。

事業成果

県地球温暖化対策課の査定で、6年連続CO₂吸収量認証の交付を受け、団員は誇りにし、地球温暖化に関心を持ちながら学校での育苗や現地での植樹に取り組んでいる。

下刈り・枝打ち作業・追肥活動を実施したことで、参加者(緑の少年団員)は、森林は手入れが不可欠であることを学び森林を育てることに興味・関心を示した。

事業をよく知る関係者の声

- ・継続した植栽活動が桜島の自然に根づき大きな森となりつつある。このことは、現地での植栽や下刈の活動等とあわせ、緑の少年団や各学校での蒔種から育苗と継続した活動とそれを指導されてきた方々の取組の成果でもある。(鹿児島県庁地域振興局林務水産課)

参加者の声

- ・夏の暑い日の下刈や枝打ちは大変だったが、下草や余計な枝がなくなりスッキリ感と達成感を覚えた。また、お互いに手伝って、仲間作りもできた。(緑の少年団員)
- ・生徒たちは、ある程度の知識はあるが、その内容を「感じる」ことが不足している。今後も、体験活動を大切にしていきたい。(教員)



植樹地への客土入



苗木



ウバメガシ、アラカシ、マテバシイなどを植樹



実行委員による植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.22ha
植付本数：1024本
下刈面積：1.68ha

参加者数

県内：193人
計：193人

樹種

ウバメガシ、アラカシ、マテバシイ

